

日本動物実験代替法学会

第19回大会

The 19th Annual Meeting of JSAAE

大会プログラム  
要旨集

Alternatives to Animal Experiments

December 1-2, 2005

FORUM246

(Isehara, Kanagawa, Japan)



# 日本動物実験代替法学会第 19 回大会

The 19th Annual Meeting of the Japanese Society  
for Alternatives to Animal Experiments

2005 年 12 月 1 日（木）～2 日（金）

フォーラム 246

## 大会事務局

〒257-8523 神奈川県秦野市落合 729-5  
（財）食品薬品安全センター秦野研究所  
遺伝毒性部細胞毒性学研究室内  
TEL: 0463-82-0773  
Fax: 0463-82-9627  
e-mail: jsaae-19th@fdsc.or.jp

## 大会長挨拶

この度は日本動物実験代替法学会第19回大会にご参加下さいまして深く感謝申し上げます。

本学会も設立してほぼ20年を迎えることとなりました。今般、わが国の動物愛護法の改正により、動物実験代替に関する3Rs原則の遵守はトキシコロジーの分野のみならず、実験動物を用いるあらゆる研究分野においても極めて重要になってきております。

わが国では長年の念願が実り、国立医薬品食品衛生研究所内に日本代替法評価研究センター (Japanese Center for the Validation of Alternative Methods, JaCVAM) が設立されました。JaCVAMは、研究面および行政的にもわが国における代替法の推進センターになることが期待され、また ECVAM (EU) や ICCVAM (USA) など欧米の諸機関との国際的な連携に重要な役割が期待されます。このような状況から、本大会では JaCVAM 設立記念講演会を企画し、ECVAM 所長の Tomas Hartung 先生、ICCVAM 会長の Leonard M. Schechtman 先生、さらにはアジアとの連携を深めるべく中国、韓国など海外から6カ国9名の先生方を招待いたしました。

シンポジウムでは、EU化粧品指令第7次改正や OECD 毒性試験ガイドラインでの代替法開発の動きを受けて、とくに開発の難易度が高い発がん性試験と免疫毒性試験にフォーカスをあて、この分野で先端的な研究に携わっておられる先生方や、感作性試験の代替法である LLNA 法の第一人者として David Basketter 先生を英国よりお迎えして内容の深いシンポジウムを企画しました。また、獣医学の教育現場においては、教材として非動物モデルによる実習などの動きがありますが、今回は獣医学を学ぶ学生諸氏による公開フォーラムを企画いたしました。それぞれの企業においても代替法の研究開発が活発になされており、今回はその先端的な研究開発状況の報告として、SCOT 研究の成果を紹介していただきます。

国際的には、英国での3Rs代替法センターの新設、ドイツ代替法センター[ZEBET]の大幅な組織拡充、さらには、EUでの超大型の代替法研究開発プロジェクトの動きなど、3Rsに関するEU各国での行政の積極的な取り組みが展開されております。一方、韓国や中国でも3Rsの原則が醸成されつつあり、本学会の国際的な役割として、アジアの国々との連携を図る必要もあります。このように、本学会の存在とその役割がますます重要になっておりますが、今後とも、会員諸氏ならびに国内諸団体の強力なご支援を給わりますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、本学会の開催に際しては、多くの企業ならびに諸団体のご支援をいただきました事に関しまして、深く感謝申し上げます。

2005年12月1日

日本動物実験代替法学会第19回大会  
大会長 田中 憲穂

# 大会案内



# 日本動物実験代替法学会第 19 回大会

日時：2005 年 12 月 1 日（木）～2 日（金）

会場：フォーラム 246

〒259-1116 神奈川県伊勢原市石田 350 番地

Tel: 0463-96-3711, Fax: 0463-96-3707

**12 月 1 日**

8 : 30 (246 ホール)

受付開始

9 : 30～11 : 50 (246 ホール)

シンポジウム 1 : 発がん性試験の代替を目指す最新の展開

座長：林 眞（国立衛研）、田中憲穂（食薬セ・秦野研）

- |      |   |               |
|------|---|---------------|
| S1-1 | 変異原処理による in vivo/in vitro 遺伝子発現             | 鈴木孝昌（国立衛研）    |
| S1-2 | 遺伝子改変マウスを用いた化学物質の発がん性評価                     | 三森国敏（東京農工大）   |
| S1-3 | ヒト型遺伝毒性試験と、ひと発がん性の予測                        | 本間正充（国立衛研）    |
| S1-4 | プロテオミクス技術に基づく化学物質のプロファイリング                  | 山中秀徳（化評研）     |
| S1-5 | Bhas42 細胞を用いるイニシエーター/プロモーターの検出              | 浅田 晋（食薬セ・秦野研） |
| S1-6 | 発がん性試験の代替法:ECVAM での Prevalidation Study の現状 | 梅田 誠（食薬セ・秦野研） |

12 : 00～12 : 50 (405 研修室)

評議員会

13 : 30～15 : 15 (246 ホール)

シンポジウム 2 : SCOT 特別研究（資生堂共催）

代替法最前線：In Vitro Toxicology のブレークスルーを目指して

座長：佐藤温重（昭和大）、板垣 宏（資生堂）

- |      |  |               |
|------|--|---------------|
| S2-1 | 代替法最前線：In Vitro Toxicology のブレークスルーを目指して     |               |
|      | 挨拶と主旨  | 佐藤温重（昭和大）     |
| S2-2 | 単回投与毒性試験代替法の開発研究および                          |               |
|      | 皮膚モデルを用いる遺伝毒性試験法の開発研究                        | 田中憲穂（食薬セ・秦野研） |
| S2-3 | 化学構造に基づく経皮吸収の予測                              | 山下富義（京大）      |
| S2-4 | 感作性試験代替法に用いる細胞の薬物代謝能の評価                      | 吉田武美（昭和大）     |
| S2-5 | 接触皮膚炎感作過程における未解決の問題                          | 相場節也（東北大）     |
| S2-6 | THP-1 細胞(ヒト単球由来株化細胞)を用いた in vitro 皮膚感作性試験法   |               |
|      | (human Cell Line Activation Test; h-CLAT)の開発 | 足利太可雄（資生堂）    |

15 : 30～17 : 50 (246 ホール)

日本代替法評価センター (JaCVAM) 設立記念講演

代替法の国際協調

座長 : Dr. Leonard M. Schechtman (ICCVAM)、Dr. Yasuo Ohno (NIHS)

Introductory remarks	Dr. Taku Nagao (NIHS)
Research on Alternatives in Japan and JaCVAM, Its role and future plan	Dr. Yasuo Ohno (NIHS)
European policy for the development of alternative methods	Dr. Tomas Hartung (ECVAM)
International cooperation of the validation and evaluation of alternative methods	Dr. Leonard M. Schechtman (ICCVAM)
Development of alternative methods in USA	Dr. William S. Stokes (NICEATM)
Research on alternatives in Korea (or Animal experiments in Korea)	Dr. Park Jae-Hak (Souel University)
Research on alternatives in China (or Animal experiments in China)	Dr. He Zhengming (Lab. Animal Center)
Closing remarks	Dr. Noriho Tanaka (JSAAE)

18 : 00～20 : 00 (相模)

懇親会

**12月2日**

8:30 (246 ホール)

受付開始

9:00~11:00 (246 ホール)

市民公開フォーラム：獣医学部学生が考える代替法教育

座長：黒澤 努（阪大）、後藤江梨子（InterNICHE）

- |     |  |                   |
|-----|--|-------------------|
| F-1 | 世界における近年の教育における代替法導入の状況                | 後藤江梨子（InterNICHE） |
| F-2 | 高等教育における動物献体制度の提言                      | 李 謙一（東京農工大）       |
| F-3 | 大学教育における(主に獣医学科)解剖学実習を考える～献体制度の実現に向けて～ | 永長大輔（麻布大）         |
| F-4 | 獣医外科学実習～その現状と問題点～                      | 太田快作（北里大）         |

11:00~12:00 (413 研修室)

ポスター発表

13:00~13:45 (246 ホール)

日本動物実験代替法学会総会

13:45~14:30 (246 ホール)

学会賞授賞式・ゴールドプレゼンテーション賞表彰式

14:30~16:40: (246 ホール)

シンポジウム3：感作性試験代替法の現状

座長：相場節也（東北大）、小島 肇（メナード）

- |      |   |                           |
|------|---|---------------------------|
| S3-1 | 皮膚アレルギーの臨床  | 相場節也（東北大）                 |
| S3-2 | Integrating <i>in vitro</i> data into skin sensitization risk assessments | Dr. David Basketter（SEAC） |
| S3-3 | LLNA-DA 及び LLNA-BrdU 法について  | 金澤由基子（食薬セ・秦野研）            |
| S3-4 | 細胞を用いた皮膚感作性試験代替法  | 坂口 斉（花王）                  |
| S3-5 | 蛋白結合性を指標とする試験法  | 中村洋介（住友化学）                |
| S3-6 | TOPKAT による簡便な <i>in silico</i> 毒性予測                                       | 斉藤 丈（アクセルリス）              |
| S3-7 | Derek for Windows 皮膚感作性に対する毒性予測   | 秋山浩子（CTC）                 |



## タイムテーブル

	12月1日(木)	12月2日(金)
9:00	受付・登録	受付・登録
10:00	シンポジウム-1 (9:30~11:50) 発がん性試験の代替を目指す最新の展開 座長：林 眞 (国立衛研)	市民公開フォーラム (9:00~11:00) 獣医学部学生が考える代替法教育 座長：黒澤 努 (阪大) 後藤江梨子 (InterNICHE)
11:00	田中憲穂 (食薬セ・秦野研)	ポスター発表 (11:00~12:00)
12:00	昼食 (評議員会)	昼食
13:00	シンポジウム-2 (13:00~15:15) 代替法最前線: <i>In Vitro Toxicology</i> のブレークスルーを目指して (SCOT 特別研究 資生堂共催)	総会 (13:00~13:45) 学会賞授賞式・ゴールデン・プレゼンテーション賞表彰式等 (13:45~14:30)
14:00	座長：佐藤温重 (昭和大)	
15:00	板垣 宏 (資生堂)	シンポジウム-3 (14:30~16:40) 感作性試験代替法の現状 座長：相場節也 (東北大) 小島 肇 (メナード)
16:00	日本代替法評価研究センター (JaCVAM) 設立記念講演 (15:30~17:50) -代替法の国際協調-	
17:00	座長：Dr. Leonard M. Schechtman (ICCVAM) 大野泰雄 (国立衛研)	
18:00		
20:00	懇親会 (18:00~20:30)	

## 大会発表要領

### ○シンポジウム講演

PC プロジェクタを使用します。使用するプロジェクタは1台で併写はできません。

スライドは Microsoft PowerPoint を用いて作成し、USB メモリ（スティック型の USB 差し込みフラッシュメモリ）に保存してください。（バックアップとして CD-R をご持参ください）。

会場入り口の受付にて発表 30 分前までに受付を済ませてください。お使いのパソコンと、発表に使用するパソコンの環境の違いにより、画面レイアウトのバランスが乱れるなどの不具合が発生する可能性があります。当日、受付に確認用 PC（Windows）を設置いたしますので、ご自分で確認いただいた上で、担当者にプレゼンテーションを保存した USB メモリをお渡しください。

講演中の画面操作は演台に置かれたモニターを見ながら、ご自身でマウスを操作して画面を進めていただきます。

USB メモリはシンポジウム終了後、受付にてご返却いたします。

### ○ポスター作成・展示・説明要領

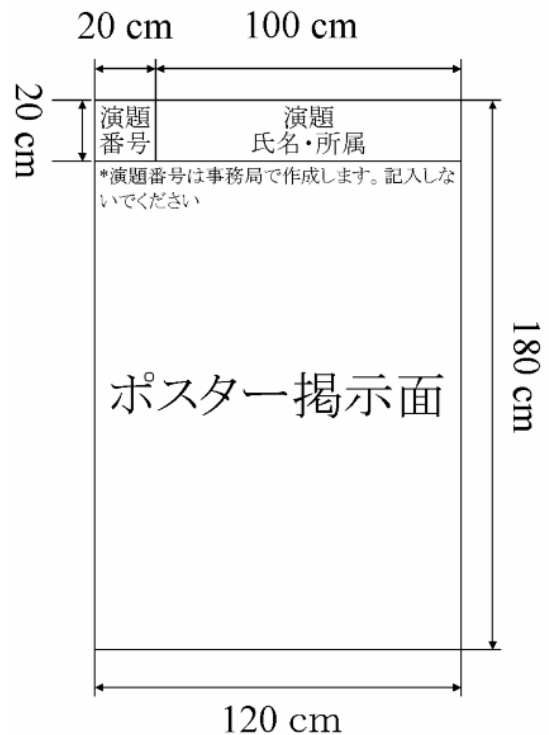
展示会場：4階 413号室

受付開始：12月1日 9時30分（受付にてリボンと画鋏をお受け取りください）

展示開始：12月1日 10時

展示終了：12月2日 13時

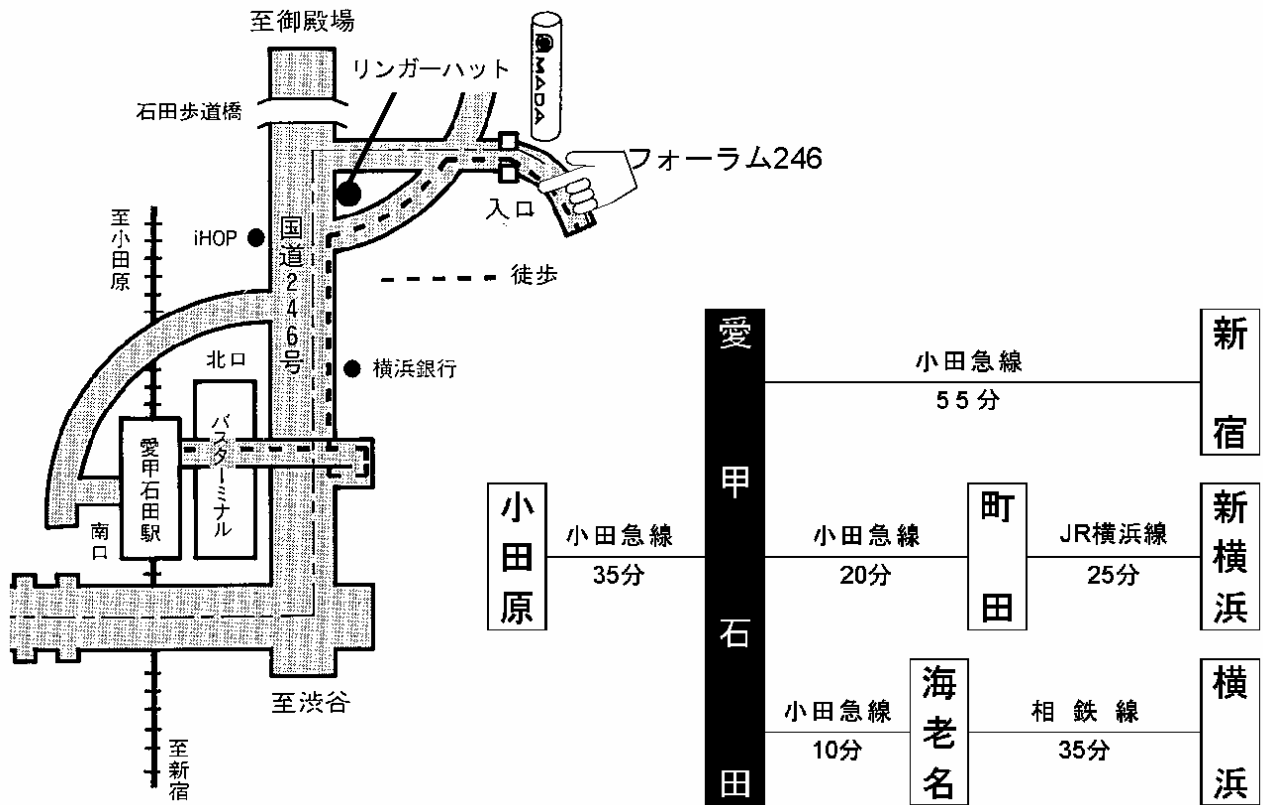
- 1) ポスターは12月1日10時より2日13時まで展示します。
- 2) 展示物は幅120cm、高さ180cm以内のポスターを作成し、ボードに画鋏で貼って頂きます。
- 3) 演題番号は大会事務局で用意しますので、指定の場所に展示願います。
- 4) 12月2日は、数グループに分けてポスター前で説明・質疑応答の時間を8分程度設定します。発表者はリボンをつけて、ポスター前で説明願います。また、ポスター発表の時間内はご自分のポスター前での説明をお願いします。
- 5) 展示終了後は速やかに撤去願います。リボンは受付に返却願います。時間を過ぎてもポスターを撤去されない場合には事務局にて処分いたします。
- 6) 優れた発表には、「ゴールデンプレゼンテーション賞」が授与されます。



### ○ゴールデンプレゼンテーション投票方法

投票用紙は名札についております。ポスター会場に投票箱を設置いたしますので、12月2日11時から12時の間に投票してください。

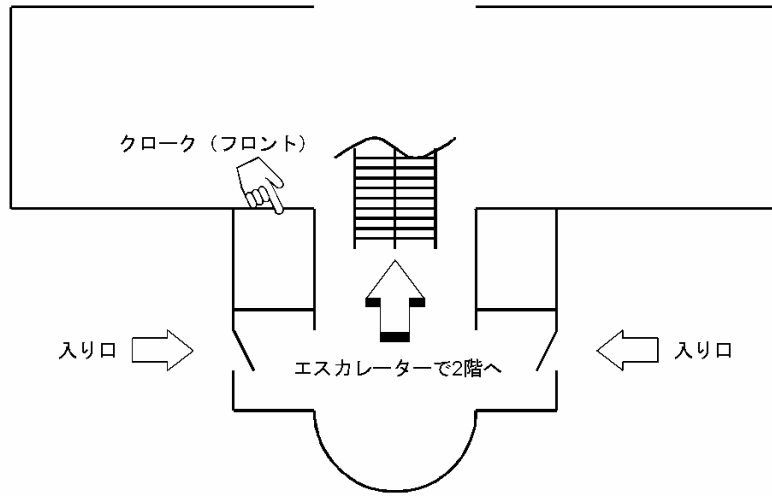
## フォーラム 246 への交通案内



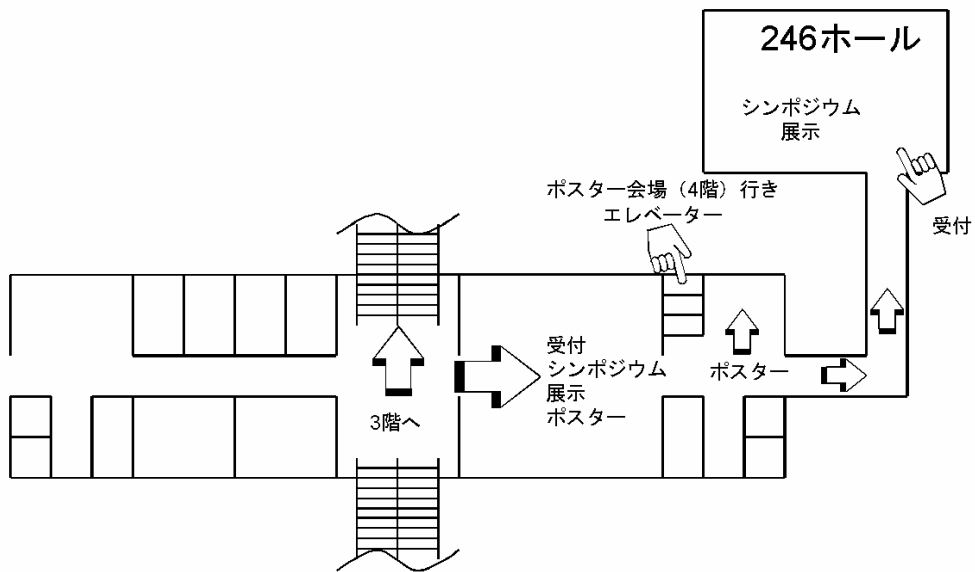
- 新宿から： 小田急線の急行「小田原行」、「箱根湯本行」の前6両にご乗車ください(所要時間55分)。
- 新横浜から： JR 横浜線、「八王子行」にご乗車ください(所要時間25分)。町田駅下車後、小田急線の急行「小田原行」、「箱根湯本行」の前6両にご乗車ください(所要時間20分)。
- 横浜から： 相鉄線の急行「海老名行」にご乗車ください(所要時間35分)。海老名駅下車後、小田急線、急行「小田原行」、「箱根湯本行」にご乗車ください(所要時間10分)。
- 小田原から： 小田急線、「新宿行」、「相模大野行」、「本厚木行」にご乗車ください(所要時間35分)。

# 会場案内図

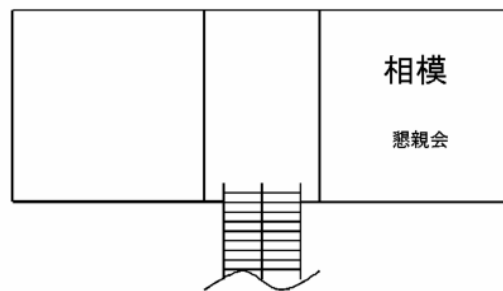
## 1階（入り口）



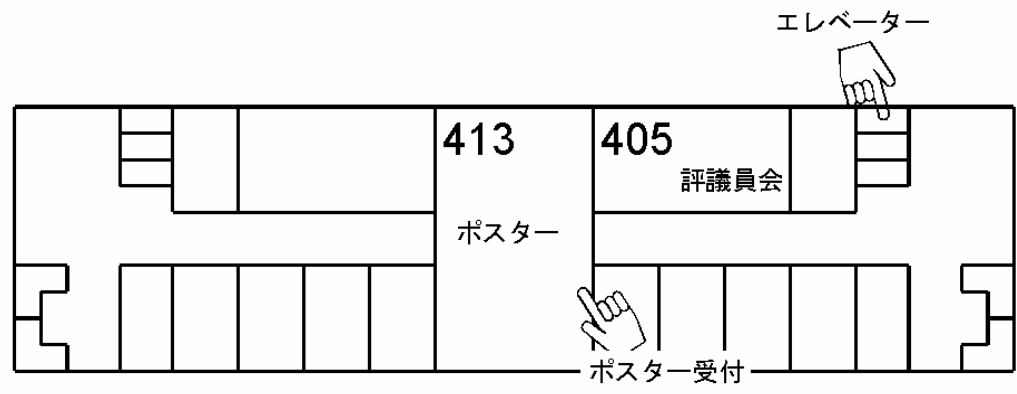
## 2階（受付・シンポジウム・展示）



## 3階（懇親会）



4階 (ポスター発表・評議員会)



246ホール (受付・シンポジウム・展示)

